

中学校	第二分野共	三春中 田島高校 平一中	39 13 32	8月7日～8月13日 8月10日～8月16日 7月30日～8月5日
	高等学	化学班 地学班	福島大学 ク	24 28
	計	10班	8会場	335

③ 実施状況

小学校部会、中学校部会については、従来どおり各ブロックごと1出張所が中心になっていっさいの事務を担当し、これに理科研究会の方々の積極的な協力により実施した。内容、日程等は各会場独自のものであるが、酷暑の折連続7日間、実技中心の効果的な研修であった。

高校部会には、4月初め各高校に開設希望科目の調査を実施し、これに基づき化学と地学の講座を開設した。大学の先生方の周到なご準備と熱心ご指導は、そのりっぱな設備とともに受講者を満足させるのにじゅうぶんであった。

④ 所見

小、中、高各会場ごと受講者ならびに実施担当者の意見を求めたが、いずれも好評であった。ただ担当者としては経費不足には頭を悩ましていた。消耗器材費と謝金の増額、高校参加者に対する旅費支給について改善を加える必要があろう。

(2) 県主催講習会の実施状況

① 理科教員講習会

期 日 36・7・21～23の3日間

会 場 安達郡安達町立油井小学校

参加者 小学校低学年担当教員155名

講 師 安達管内理科研究会員その他

実施内容 小学年低学年の理科教材を主体とし、

直接授業に役立てることを主眼とする。

所 見 本講習会は昨年に引き続き第2年次であるが、小学年低学年担当の女教師はこの種の講習会には従来ほとんど参加していないので有効であった。

② 臨地実技講習会

期 日 36・7・28～30の3日間

会 場 会津若松市立第一中学校

参加者 県下小中学校教員、約100名

講 師 福大三本杉博士、小林先生

実施内容 背炙山、塔のへつり 赤井谷地の実地調査、採集

所 見 植物、岩石鉱物等の観察能力を高めるにはきわめて有効であった。ただ、参加者が予定より多いので、指導の徹底が期せられなかったのは残念である。

③ 高等学校理科教育講習会

期 日 36・7・30～8・1

会 場 会津高等学校

参加者 県下高校理科担当教員100名

講 師 東京教育大学学長 朝永振一郎氏

実施内容 原子物理学について

所 見 一流の物理学者に接し、解説の明確なこと強く感銘を受けた。

④ その他

理科教育研究会を後援して実施した大会や研究発表会等各地で行なわれた。

3 問題点とその対策

科学技術教育振興上の障害点としては、まず人の不足である。工業高校増設に伴ない、工業教員を中学校教員中の有資格者から求めようとすれば中学校における優秀な指導者に不足を来すことになる。中学校における理工科系教員の不足は小学校にしわ寄せされ、小学校で理科の中学校免許状を持つ人がほとんどなくなりつつある。また、質の点についても種々問題がある。徹底的な現職教育及び教員養成が考えられなければならない。

第7節 産業教育

昭和36年度においては本県産業教育の現状にかんがみ「産業教育振興法」および「福島県産業教育総合計画」「福島県高等学校入学志願者急増対策資料」に基づき次の方針を樹立して中学校、高等学校の充実強化を図った。即ち

(方針)

1. 高等学校産業教育設備施設の充実
 2. 現職教育の拡充
 3. 工業高等学校教員の充足計画
 4. 農業高等学校の体質改善
 5. 普通高等学校家庭科設備の充実
 6. 中学校技術家庭科設備の充実強化
 7. 高等学校科学技術教育実験実習の充実
 8. 産業教育振興団体の育成
- を期し次に掲げる諸施策を実施した。

(施策)

1 高等学校産業教育施設設備の充実

(1) 新設課程設備

本県高等学校(公立)の職業課程生徒数と普通課程生徒数は、それぞれ23,657人対31,219人でその割合は43.2%と56.8%であるが、国是としての、国民所得倍增計画ならびに昭和37年度以降に予想される高等学校入学志願者の急増対策として特に産業教育の見地から勿米工業高等学校を新設し機械科・電気科・工業化学科・建築科を設置した。また福島工業高等学校及び会津工業高等学校にそれぞれ電子科各1学級を増設するとともに昭和35